



リレートーク #179



還暦を機に 飛行機の免許に挑戦

長江 洋一

六興電気
取締役兼代表執行役社長

澄み切ったカリフォルニアの空を、自分の力で飛んでみたいと思ったことはありませんか？
私は今年還暦を迎えますが、この、子供のころからの夢に向かって一步踏み出しました。

きっかけはアメリカでの体験操縦です。ロングビーチ空港からモハーベ空港まで約1時間のコースで、離陸した後はほとんど自分で操縦しました。パソコンのシミュレーターはやったことがありましたが、乗機が手足のように動くのにあらためて感動しました。ところが途中、雲底が低くて有視界飛行では山脈を越えられません。すると、同乗した教官が「あそこはランチがおいしいですよ」と言う、まさにバイクのツーリング感覚で、目的地をフレンチバレー空港に変更です。最後は「着陸してみますか？」と言われたのももちろんYES、無事に着陸できました。やればできそうだな、というのが体験操縦の感想です。そしてランチを食べながら話していると、免許取得のハードルは越えられないほど高くはないことが分かりました。

取得するには、まず時間です。実地訓練には60時間ほど必要ですが、数年に分割して取る人はざらにいます。私は必ず9月にアメリカ出張があるので、その後1週間余分に滞在すると15時間、さらに長期休暇を利用すれば年間25時間は乗れます。訓練費用も安く60万円ほど。そして驚いたのは中古機の値段で、ちゃんと飛べるセスナが3万ドルぐらいで買えます。さらにこれをフライトスクールに貸し出すと、駐機場や整備費用は負担してもらえます。アメリカに自家用機を置いておき、行ったときに自由に乗り回す、などという途方もない話も現実味を帯びてきます。家族の反対も予想しましたが、これはもう言っても無駄と分かっているのか、なにも言われませんでした。

私は子供のころから飛行機が好きで、幼稚園で描いた画用紙には必ず飛行機が飛んでいました。社会人になってからも、機会を見ては戦闘機やエアラインのシミュレーターに乗っています。趣味の写真では、航空雑誌のカメラマンを拝命しています。めでたく合格の暁には、皆さんと一緒に空の散歩をしたいので、ぜひ応援してください。

次回リレートーク：芳賀 日登美（ストラテジック コミュニケーション RI 取締役社長）